

私の提言 渋谷良二 (財)日本自転車普及協会 総務部長

自転車は車両ではない意識を身につけて ルール、マナーを守ってほしい

平成18年に(財)日本自転車普及協会ではアンケート調査(自転車乗用環境の整備改善に関する調査)を行い、6138人(10代〜70代以上)から回答を得た。その中で「歩道上で自転車を危険に感じたことは?」という質問に対して、「ときどきある」(53・1%)と「よくある」(42・4%)という回答が合わせて95・5%にもなった。「これは尋常ではない数字です」と渋谷さんは言う。

「30年前に自転車の安全を図るために緊急避難的措置として、自転車の歩道通行を場所によって認めて以来、時間の経過とともに、自転車は歩道通行が当たり前、どこを走ってもいいという意識がしみついてしまったようです。自転車は車両であるということが忘れられ、基本的なルールを知らない方が増えてきた結果、自転車が歩行者に脅威を与え、事故に発展していると思います。」

現在、警察に届けられている自転車対歩行者の事故は氷山の一角にすぎない。

いと、渋谷さんはみる。「無届けの事故はもっと多いはず。事故の加害者の自転車利用者が逃げたまま、歩行者が自分の健康保険で治療するケースや、自転車利用者がほとんど賠償責任保険に入っていないので被害者だけでなく、加害者にとっても不幸な事態になつていくケースもあるでしょう。」

日本自転車普及協会では5月の自転車月間のキャンペーンなどで、自転車は車両であるという基本から訴えていくという。

「自転車が公道を走っている時は、クルマ側にも自転車に気をつけてもらわないといけません。一方、歩道を走るときは自転車が歩行者の安全を脅かさないように気をつける必要があります。歩行者が安全に移動するための歩道です。まず弱者である歩行者の安全から考えるべきです。マナーの悪い自転車には、自転車は車両であるという意識をもたせるように指導、取締りをしていく必要があります。また、歩道を走るということは、歩行者に対する社会的責任を負うということですから、自転車も賠償責任保険に入るように啓発しないといけません。」

さらに渋谷さんは歩行者、自転車、クルマの安全を確保するために、「それぞれが移動する場所を物理的に分離していく」という交通政策が理想です」と語る。

幼児・児童へヘルメット着用の啓発

自転車の事故防止については、自転車のルールとマナーの徹底が重要と、渋谷さんは考える。「自転車事故を起こす年齢層は16歳前後が多く、被害者は高齢者というケースが多い。高齢者はちょっとした接触でも転倒して重傷、死亡事故につながることもあります。」

地方では自転車通学があり、高校生を中心に朝の通学時のマナーが問題となっているようですが、都会では小学生や中学生が夜、塾から帰る時間帯での自転車のマナーの悪さが目立っていると思います。歩道を3、4台で並進するなど、ルールが守られていません。ルールを教えて、いかに行動につなげていくかが課題です。また、事故原因では一時不停止が多いために、なぜ一時停止しなかったのか、できなかったのかを説明することが重要です。例えば高齢者がしないのは、一旦止まったらこぎ出すと、ふたつので止まりたくないという心理が働いてしまうからだと考えられます。そうした心理を踏まえて安全教育に取り組む必要があるでしょう。」

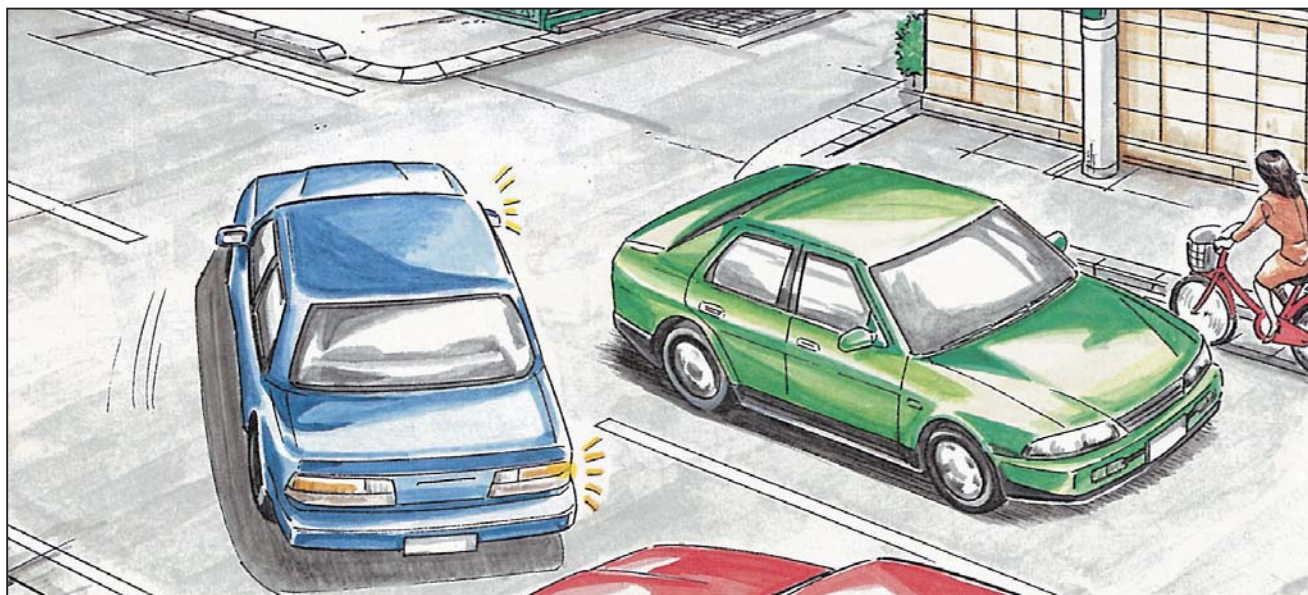
改正道路交通法の施行に向けて、日本自転車普及協会では啓発活動に力を入れている。自転車に乗る児童・幼児のヘルメット着用が努力義務になったことから、今年3月7日から9日までの3日間、東京・千代田区の科学技術館で自転車のヘルメット展を初めて開催した。「大切な頭をしつかり、スマートに守るために」をキャッチフレーズに子ども用から大人用まで最新の自転車専用ヘルメットの展示、ヘルメットをかぶらなかつた時の危険を知ってもらうモニター映像、日本とヨーロッパのヘルメット事情などを展示。

「幼児・児童は自転車に同乗または運転して転倒した時、頭部から落ちることが多い。頭部を保護するために、子どもたちがかぶりたいくなるような、親がかぶせたいくなるようなファッション的な要素を取り入れたヘルメットを展示しました。期間中、多くの親子連れが来場したことから、自転車専用ヘルメットへの関心が高まっていると、渋谷さんは手ごたえを感じている。」

危険予測トレーニング(KYT) —危険感受性を育てる

第①回 右折時の落とし穴

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を育てるための題材をご提供いたします。今回は四輪車のドライバーに、自転車の行動を考えてもらうためのKYTです。企業/団体などでのグループ教育の学習の中で活用してください。



あなたはゆるい下り坂の狭い道路で右折待ちをしています。対向車が通過したので、すぐに右折しようとしています。どのようなことに注意する必要がありますか?

正解を1つ、または2つ選んでください

Q1 どのような危険がありますか?

- ①直進車が通過したので問題はない
- ②右後方から右側通行してくる自転車がくる
- ③待たされた後続の直進車が発進する

Q2 どのような運転をしますか?

- ①右折する前方に人やクルマがないかを確認しながら進む
- ②後続車に追突されないように急いで右折する
- ③右後方から自転車がくる可能性まで考えに入れて、確かめながら進む

活用方法

- ①少人数のグループをつくります。
- ②「交通場面のイラスト」を見ながら、Q1、Q2について意見を出し合います。
- ③その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すればいいか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJのホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業(株) 安全運転普及本部
TEL:03(5412)1736



今回のKYTの題材は、Hondaの危険予測トレーニング教材「交通状況を鋭く読む〜危険予測トレーニング〜四輪車用」から抜粋しています。詳細については以下ホームページ参照。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/training/>